

## おわりに

「まちづくり」とは、市民自らが「まち」を創っていくという意味が込められています。そこに住む人々が、自ら責任を負い、自分たちの現在と未来のために共同して創っていくものです。

ここにまとめた「土地利用のあり方」「まちづくりの方向性」が、このまちに住む人たちにとって、また、このまちをつくり育てる人たちにとって、共通の目標となれば幸いと考えております。

今後、協議会で取りまとめた成果は、専門委員会において、計画から事業の具体化に向け議論・検討することとなりますが、私たちの、まちづくりに対する意思や願いをしっかり受け止め、今を生きる私たちのために、そして、未来を担う子供たちのために、実のある計画としていただくことを期待します。

併せて、まちづくりを100年後にも受け継いでいくためには、深沢地域の歴史・文化を紐解き、その上で継承していくことが何よりも大切となります。

深沢地域の歴史については、これまで協議会での検討においても、委員の強い思いもありましたので、鎌倉市史総説編を基に振り返り、専門委員会での検討の一助となることを願います。

### ～深沢地区の今昔～

この地は、奈良・平安時代には相模国鎌倉郡と呼ばれ、七郷の一つである梶原郷が現在の深沢地区一帯にあたります。平安時代の末期に鎌倉権太夫景通がこの地に住み、梶原氏と称したことに遡ります。

その後、この地は新田義貞との攻防の地となり、鎌倉幕府終焉を告げる州崎の古戦場となりました。

このことを後世に唯一伝えるものとして地区北東部に位置する「宝筐印塔」、俗称『泣塔』が今に歴史を伝えています。

昭和になると、第二次大戦時下、横須賀海軍工廠の深沢分工場として利用され、終戦を機に日本国有鉄道大井工場の分工場として昭和62年の国鉄改革に至るまで、首都圏の三大工場の一つとしてその使命を果たし、地域経済の発展や雇用の創出に大きな役割を担ってきました。

また、深沢地域は、昭和23年に深沢村が鎌倉市と合併し、平成20年に合併60周年を向かえ、今日に至っています。